



## 3月10日 第66回卒業証書授与式 148名巣立つ!



対面式の卒業式



送辞(現生徒会長)



答辞(前生徒会長)



恩師



別れの歌 在校生「そのままの君で」



卒業生「足跡(あしあと)」



全員合唱「旅立ちの日に」

### 《学校長式辞》

芽生えはじめた校庭の木々や、頬をなでる風のおいにも、新しい春の訪れが感じられる今日、3月10日。

本校の第66回卒業証書授与式を、和歌山市教育委員会をはじめ、多くのご来賓の方々や保護者の方々のご臨席をいただきまして、このように盛大に挙行出来ますことを、卒業生と共に心から感謝申し上げます。

148名の卒業生の皆様には、今、卒業証書をお渡し致しました。まず、卒業生の皆様に、心からお祝い申し上げたいと思います。「卒業おめでとうございます」。皆さん一人一人の胸の中に、どのような思いが、あるのかわかりませんが、人生の大きな節目である、今日の、この日の、この思いを大切にしてください。

また、長い間、陰に日向に、いろいろと心を痛められ、ここまで育ててこられた保護者やご家族の方々のお気持ちは、いかがであったでしょうか。思い、ひとしおのものがあり、「我が子がここまで」と感慨無量のものでありだと察します。

さて、卒業生の皆様が中学校生活への期待を胸に、この東和中学校の門をくぐってから、早3年。この間、学習や部活動に、また、生徒会活動や、様々な学校行事に、生き生きと取り組み、後輩達の心に残る素晴らしい足跡を残してくれました。

日々の生活の小さな事にも、真摯に受け止め、努力を忘れなかった君たちは、この3年間で、本当に、心身共に大きく成長しました。

このようにして、今日の日を迎えられたのは、君たちの頑張りや努力もあつてのことですが、それにも増して、多くの周りの人の支えがあったからです。

そうした方々への感謝の心を忘れないようにし、素直に、「ありがとう」と言える人になって欲しいと思います。

さて、いよいよ9年間の義務教育を終え、君たちは、これからは、それぞれが選んだ道に進んでいきます。義務教育の終了は、また、新たな出発の門出でもあります。

門出に当たって、君たちに期待したいことを、お話しします。

「自分軸」という言葉があります。「自分軸」とは、自分の心の軸、芯ともいえます。自分らしさ(自分の価値観)、自分が「こうありたい」と思う姿(ヴィジョン)を指します。

「自分軸」がない人は、自分に自信が持てなくて、つい人の意見に左右されて自分を見失い、時には後悔したり、失敗し、その失敗を人のせいにしてたりするものです。

しかし、この自分の軸をしっかり持っていれば、ブレません。ブレずに自分の信じる道を進んでいきます。

そのためにまず、「目標をしっかり持って、毎日、毎日を大切に、努力を惜しまない人」になって下さい。

目標は、ただ漠然とした将来像ではなく、できる限り具体的である方がよいと思います。そして、その目標に向かって、日々地道な努力を積み重ねていってください。

次に、「自分に責任のもてる人」になって下さい。残念ながら、自分の責任を逃れ、何事もよく他人のせいにしてたりする人が多くなってきたように思います。

自分の責任は何なのか、自分の出来ることは何なのか、先ず考え、一つ一つ身近な事から、実行出来る人になって下さい。これからの変化の激しい社会の中で、自分を見失うことなく、しっかりと生きていくためには、大変重要なことだと思います。自分がしたことの結果を他人のせいにしてたり逃げたりせず、自分でしっかり責任のとれる人になって欲しいと思います。

この「自分軸」を確立するための助けとなることの一つに読書があります。いろんな本と出会うことにより、「自分らしさ」や、「こうありたい」という姿を見つけることができるものです。中学校を卒業しても、三年間、取り組んだ読書を継続し、「自分軸」を確立していってほしいと思います。

今の時代、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を身につけていかなければなりません。

この東和中学校で学んだ数々のことを誇りに、人への感謝の心を大切に、しっかりと自分の目標(ヴィジョン)を持ち、また、自分の言動に責任を持つことで、ブレない自分の軸、を確立させ、たゆまぬ前進を続けて下さい。

皆様の前途が洋々たるものであることを信じ、幸多かれとお祈りして、私の式辞といたします。

平成26年3月10日 和歌山市立 東和中学校  
校長 東方 美喜夫